

(第3種郵便物認可)

フランス人陶芸家が 常滑で2年ぶり個展

「日本と違った穴窯の使い方を見せたい」と話すカソンヌさん。常滑市の土管坂休憩所で



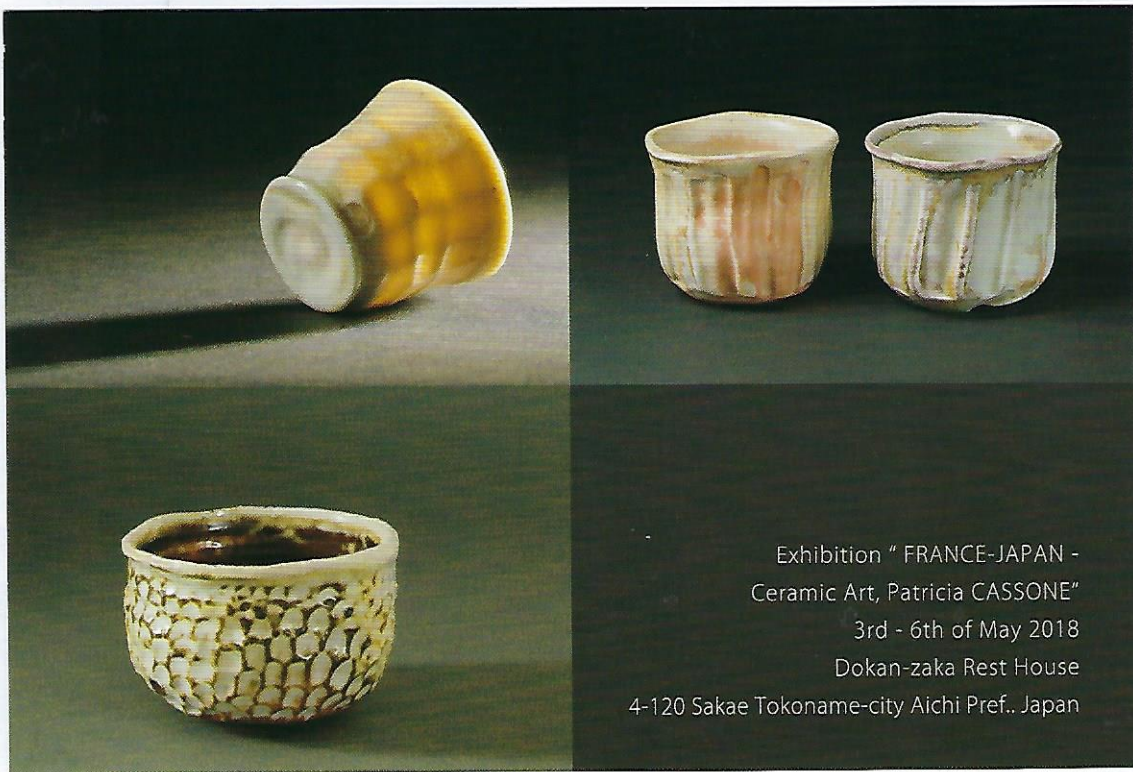
フランス人陶芸家パトリシア・カソンヌさん(左)による作陶展が三・六日、常滑市栄町の土管坂休憩所で開かれる。

フランス中部リモージュ近郊に在住。一九九五年に初めて常滑を訪れ、二〇〇三年には常滑国際やきものホームステイ(IWCA T)に参加するなど、たびたび常滑を訪れて個展を開催している。

で、フランスで築いた穴窯で焼いた作品などを展示。植物をイメージしたオブジェ、志野焼の器、穴窯で焼いた磁器の三つのジャンルを中心に並べている。穴窯で焼いた磁器は、窯の中で舞う灰が自然釉となり、ピンク、青、灰色と器の表情を変える。志野の茶わんは、自然釉が掛かるようにし、白い釉薬の上に灰色の景色を浮かべた。エスプレッソを飲むための小ぶりの磁器

5月3(木) ～6(日)

や、武士が馬上で酒を飲む「馬上杯」をイメージした作品も展示。カソンヌさんは「日本の伝統技法では志野に自然釉をほどこすことはしない。日本とは違った穴窯の使い方を見せたい」と話している。(小西数紀)



Exhibition "FRANCE-JAPAN - Ceramic Art, Patricia CASSONE"
3rd - 6th of May 2018
Dokan-zaka Rest House
4-120 Sakae Tokoname-city Aichi Pref.. Japan